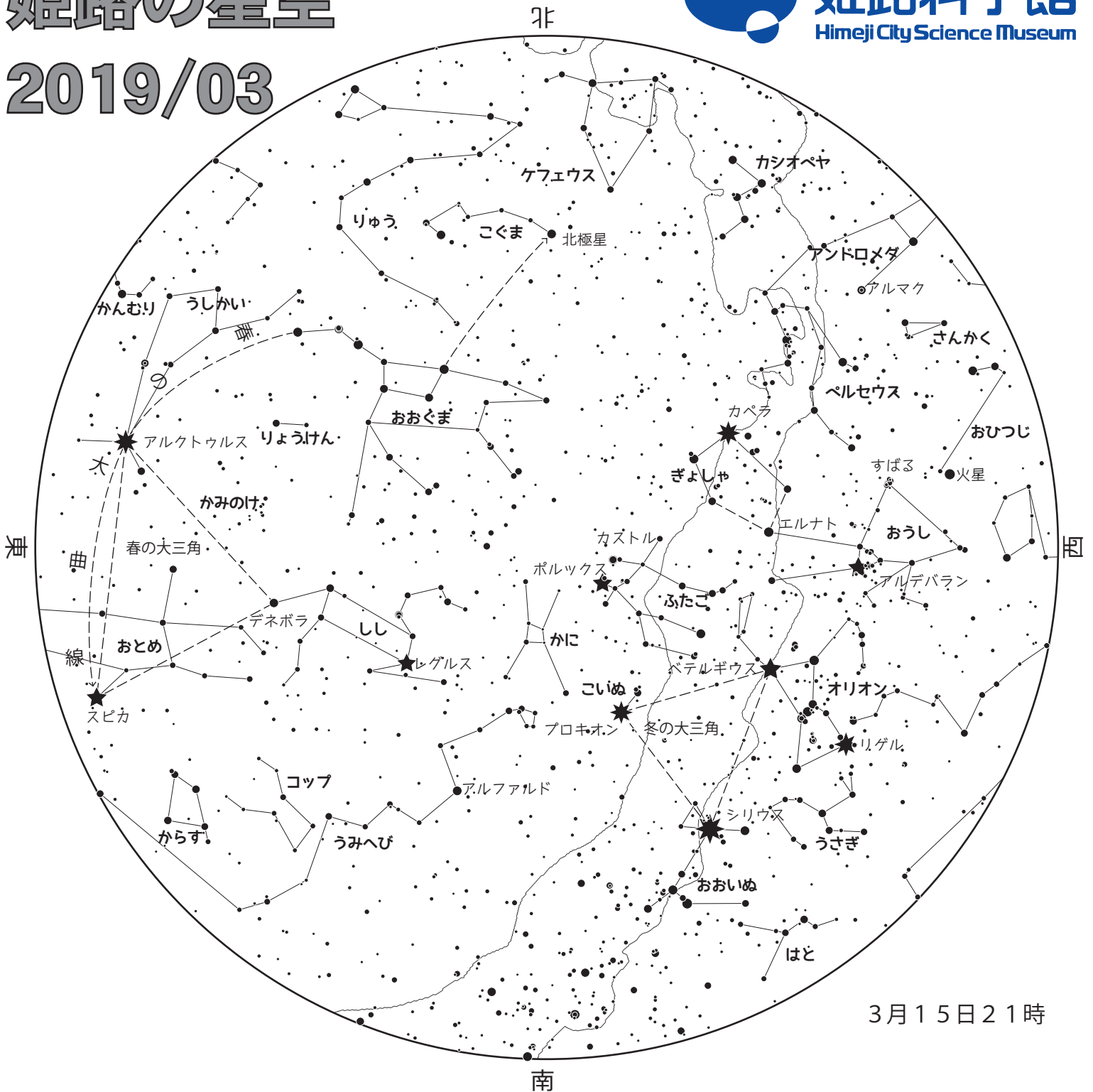


姫路の星空

2019/03



3月15日21時

空を西と東に二分すると、西側に冬の星、東の空に春の星が見えています。**おおいぬ座**のシリウスは、全天で1番明るく見える(-1.3等)だけでなく、姫路から肉眼で見える最も近い恒星です(距離8.6光年)。シリウス、**こいぬ座**のプロキオン、**オリオン座**のベテルギウスを結ぶと冬の大三角ができます。このほかに、オリオン座の2つ目の1等星リゲル、**おうし座**のアルデバラン、**ぎよしゃ座**のカペラ、**ふたご座**のポルックスとカストル(あわせて「ふたご星」)を順にめぐりましょう。

東の空には**しし座**が見えます。胸に輝くレグルス(小さな王様)は、1等星の中で最も暗い(1.4等)ことからついた名前です。北東には北斗七星が見えます。ひしゃくの先の2つを線で結んで伸ばした先に、北極星が見つかります。北斗七星は、**おおぐま座**のお尻から尻尾にかけての星たちです。北斗七星から東に続くカーブが「春の大曲線」です。カーブを伸ばすと、**うしかい座**のアルクトゥルス、**おとめ座**のスピカが見つかります。この2星としし座のデネボラを結ぶと春の大三角になります。この3星は、アルクトゥルスが0.0等、スピカが1.0等、デネボラが2.1等と、1等ずつ明るさが違います。冬の星と合わせて、明るさの違いを比べてみましょう。

西の空にはまだ火星が見えます。**おひつじ座**から**おうし座**に移動中です。